

# PTA だより

KAKAMIHARA HIGH SCHOOL /General Course, Science and Mathematics Course, English Course

第115号

平成27年7月10日

編集発行

岐阜県立各務原高等学校

PTA



▲ 4月28日 PTA総会

## 子どもの成長を願って



PTA会長

古田かつ代

日頃よりPTA活動にご理解・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。今年度PTA会長を務めさせていただきますことになりました古田と申します。一年間よろしくお願いたします。

新学期がスタートして三ヶ月、二年生は心機一転、新たな気分で学習に取り組む、一年生は高校生活にようやく慣れてきた、そんな時期かと思えます。お子さんは学校に毎日楽しく通っていますでしょうか？楽しく学校に通うこと、これが何より大事なことでないでしょうか。

多くの友人に囲まれ、何をしても楽しく、何を見ても新鮮であり、さまざまなことにも感動できる。高校生時代は人生で一番輝いている時期だと思います。そんな時期を温かく見守っていただくのが私たち保護者や学校の役目ではないかと思えます。

そんな希望に満ち溢れている子どもたちのためにPTA活動を充実させたいと考えております。

以下は、私が最近聞いた教育の話です。どこで聞いたかは失念しました

が、強く印象に残っており、自らの子育てを反省させられる話でしたので紹介したいと思います。

小言を並べ、言葉で指導するのは三流。なぜそうしなければならぬかを説明し、子どもを納得させて上で指導するのは二流。自ら手本を示し、やらせてみて、褒めて指導するのが一流だと言われます。しかし、さらにその上の指導があります。それは子ども心に火をつける指導だそうです。子ども心に火をつけることができれば、黙っていても子どもは自らの力で成長していきます。

教育を英語ではeducationと言います。educateとは引き出すという意味です。子ども心に火をつけることは、子どもをやる気にさせ、能力を最大限に引き出すことだと思えます。まさに、教育そのものではないでしょうか。

最後に、賢い母親の子は、賢く育つと言われます。これは母親の優秀なDNAが子どもに遺伝するからだと思われがちですが、実は、賢い母親は上手に子育てをします。上手な子育てをした結果、子どもが優秀に育つということです。

PTAの活動を通して、少しでも子育て、教育のお役に立てることができれば幸いに思います。そして、すべての各務原高校の生徒たちが、夢に近づくことができることを願っています。

## 未来を拓くために



校長  
杉原 整

保護者の皆様には、日頃から本校の教育活動に格別のご理解とご支援をいただき、心から感謝申し上げます。平成二十七年が始まり早三か月が過ぎました。今年度は一年生がハクラスとなり、現在八五七名の生徒の皆さんが活気に満ちた高校生活を送っています。四月末に始まったインターハイ予選では、剣道部の東海総体出場、ラグビー部、サッカー部の上位入賞など、これまでの練習の成果を十分発揮するとともに、次の大会でのさらなる向上を約束する成果を収めました。野球部は、各務原市高等学校野球大会で勝利し、夏の大会での活躍がおおいに期待されます。吹奏楽部は、第二十五回定期演奏会にヤン・ヴァンデル・ロースト氏を客演指揮者として招き、期待通りの演奏を披露しました。こうした成果の土台となる生徒ひとりひとりの礼儀正しさと向上心は、本校部活動のもっとも誇るべきところだと思います。

高等学校は言うまでもなく、「確かな学力」と「豊かな人間性」を身につける最終ステージです。三年間という限られた時間の中で、様々な活動に参加し、仲間と切磋琢磨し、次のステージで活躍する自分の将来像を描きながら、「たくましく生き抜く力」を養っていきます。その土台となるのが「良い習慣」です。「良い習慣」には「良い生活習慣」と「良い学習習慣」があります。このふたつの習慣が身につく、はじめて「確かな学力」と「豊かな人間性」を身につけることができま

す。本校入学当初に指導した内容ですが、土曜日や日曜日、長期休業の過ごし方については、まだまだ改善していく余地があります。日々、これまでにないスピードで変化していく時代の中で、自分の将来に向けての準備にはもっともつと力を入れていく必要があります。

そこで、お子様が「良い生活習慣」と「良い学習習慣」を身に着け、更なる向上を目指していただけるよう、本校で実施している様々な活動に積極的に参加するよう働きかけて参ります。まずは、毎時間の授業を大切にすることです。予習・復習と授業中の集中力が実力向上の力基です。次に、通常補習や土曜講座、夏季休業中の補習、英語検定に代表される各種検定試験、理科や英語科の寺子屋事業、スピーチコンテストやデイバイトコンテスト等々、数多くの活動に生徒の皆さんの参加を促して参ります。これらひとつひとつの活動の積み重ねが、生徒の皆



二一五 岩田結以 剣道東海総体出場

さんひとりひとりの夢や希望の実現につながっていきます。保護者の皆様もお子様の背中を押していただければと思います。

結びに、私たち職員一同は、生徒の皆さんと夢や希望を共有し、「やればできる」という強い思いを胸に、ひと

## 確かな学力が 将来の夢を叶える



教務主任  
山本 幸樹

本校の教育目標の一つに「知育・徳育・体育の調和のとれた生徒を育成する」があり、教育指導の重点として「学力の向上」が掲げられています。そして「学力の向上」とは、「学習に対する意欲を喚起し、自ら学ぶ態度を育成する」とあります。

ここで重要なのは「自ら学ぶ」ということ、自分で学ぼうと努力することです。高校生にとってやること、やらねばならないことは沢山ありますが、今やるべきこと、今しかできないことに一生懸命取り組むことが高校生らしさだと思えます。将来何をよりどころに勝負するのか、自分が自信を持てるもの、持つべきものは何かを考えた時、それは広い意味での学力です。学力とは単に勉強ができた、テストで点が取れる事のみを意味するものでは

りひとりの特長を生かした教育活動に日々邁進してまいります。毎日の授業を軸に、部活動や生徒会活動等への参加を通して、社会で役立つ資質を醸成してまいります。保護者の皆様の一層のご理解、ご支援を賜りますようお願いいたします。

ありません。学力をつけるために努力し、勉強する途中、過程において得られるものも含まれます。高校生が求められることには色々ありますが「学力をつけること」はどんなことも差し置いても行わなければならないことです。「勉強してる？」と聞かれたときに「はい！」と胸を張って答えられるような高校生であって欲しいと思っています。

高校生はともすると背伸びをし、大人ぶった振る舞いをしたいと思つ年代ですが、「大人ぶる」とは、大人のふりをするのであり、本来の姿ではありません。十八歳から選挙権が与えられ、来年の夏から現役の高校生がいよいよ政治に参加することにもなりました。大人ぶるのではなく、大人としての思考力や判断力、表現力や行動力として説得力が求められます。確かな学力をもとに責任のある行動、しっかりとした態度をとることが格好いと思えるような高校生を育てられるよう職員一同全力で取り組んでまいります。学校と家庭が協力して生徒一人一人の夢が叶えられるよう保護者の皆様におかれましてはご理解・ご支援を賜りますようお願い致します。

## 本校の生徒指導の 方針と重点



生徒指導部

浅見和人

本校はここ数年、次の三つを生徒指導の重点にしています。生徒の皆さんにも目標を持って頂き、人格を向上させることができるよう、意識して生活してほしいと思います。

①集団生活における基本的な生活習慣を身につける。②自他の生命を尊重し、危険を未然に防ぐ能力を身につける。③規範意識を育て、ルール・マナーを守る。

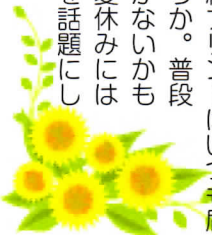
規則正しい生活の第一歩は、時間を意識した行動です。余裕のある登校から始まる一日で、学習や部活動を充実させてくれることを願っています。今年の始業から五月末までの遅刻者は一日平均三・三人です。昨年度の同時期は二・四人で、増加しています。クラス単位では四月は六クラスが「遅刻ゼロ」を達成しました。五月も五クラスが達成しておりますが、昨年比へ減少しています。また、五月の連休を境に遅刻者数が増加傾向にあり心配しています。生活のリズムが安定しないと、学習や部活動への取り組みもよくなりませんので、御家庭での生活の様子で気になることがあれば、担任や教

育相談の係などへ気軽に相談してください。

生命の尊重と危険防止に関しては、各務原警察署の加藤交通課長様を招き、交通講話を実施しました。今年度は朝の登校指導に加えて下校指導を計画的に実施し、交通安全に力を入れて取り組んでいます。四月は自損事故を含め四件の交通事故があり心配しました。五月にも三件起き、一つ間違えば命に関わるような事故もありました。本人と相手のどちらが悪くても、命に関わるような状況になれば、取り返しがつきません。細心の注意をして、事故に巻き込まれないようにすることが必要です。不審者情報も多く寄せられています。まずは、身の安全、警察への通報に心掛け、被害に遭わないように気をつけて下さい。また、一年生に対して、携帯電話等に関するトラブルを未然に防ぐために情報セキュリティに関する研修を実施しました。

高校生活は学力・体力だけでなく、社会で活躍するための感性や人となりを磨く大切な三年間です。クラスや部活動での生活を通して、仲間と共に社会で認められるルール・マナーを身につけてくれることを願っています。

学校での出来事は、御家庭で話題になりますか。連絡プリントはいつも届いているでしょうか。普段はなかなか余裕がないかもしれませんが、夏休みにはぜひ学校のことを話題にしてください。



## PTA校外研修

本年度の校外研修は本校生徒の中でも志望者の多い語学系や看護系の学科のある岐阜女子短期大学と朝日大学看護学部を選定、保護者二十九名で行ってきました。

岐阜女子短期大学は英語英文学科、国際文化学科、食物栄養学科、生活デザイン学科の四学科があり、それぞれの学科で一学年あたり五十〜六十名、一クラス三十名程度の少人数で構成され、勉強の仕方、意義、姿勢など自主性が伸びる環境であることを特徴としていました。図書館などの施設は少人数の大学であるものの非常に充実していました。

特に英語英文学科のAO入試は各務原高校英語科生徒の受験を意識して設定したという説明と、就職率の高さなど小規模校ながら非常に魅力的なところでした。(蛇足ですが授業料がとってもお値打ちであることも親としては大きな魅力でした)

朝日大学看護学部は看護系大学の二・三増大に対応するため二〇一四年より新設された学部で、真新しい看護実習施設の見学をはじめ、グループ学習にも対応した使いやすい図書館の説明など、いまどきのキャンパスライフを垣間見ることができました。実習施設は当然病院の雰囲気そのもので、実習する学生の姿はなかつたものの医療現場の緊張感が伝わる実践的な学校で

PTA副会長 平松久尚

あることを感じました。(リアルな新生児の人形が棚にたくさん納められているところは大きに驚きました)

どちらの大学でも目的意識を強く持った各務原高校卒業生の姿を見ることができ頼もしく感じました。

今回は近隣大学の見学でしたがPTAでは毎年テーマを変えて保護者のための大学見学を実施しています。我が子の選択に対してほんの少しの後押しができる知識を持つ、そんな機会として今後もご活用ください。



朝日大学 看護学実習室

★1年生★高山市内散策★



古い町並



中橋



陣屋前

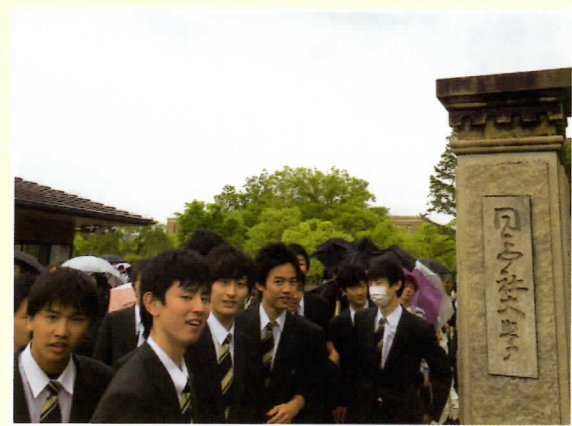


みたらし団子

★2年生★同志社大学見学★



大学食堂



★京都散策★



大学食堂

3年生 中部大学見学



メディア教育センターTVスタジオ



食堂



民俗資料館



★東山動物園★

アメリカ★セリトス市★高校生交流団★来校

6月23日(火)  
~25日(木)



書道



歓迎会で自己紹介



ランチタイム



風鈴作り



エコバッグ作り

# 入試報告



進路指導主事

森下 範子

## ◎二〇一五年度入試について

全国の概況として、二〇一五年度入試は、センター試験の志願者数が前年度と比べ一、五四〇人減少し、五五九、一三一人となりました。五教科七科目の平均点は全体として低く抑えられ、科目別では、昨年難化した国語がアップした一方、数ⅡBは低くなり、新たに実施された理科基礎四科目と国語が文系の平均点上昇の背景となっており、数年来の理高文低に落ち着きが見られる結果となりました。さて、本校では九割以上の生徒が地元の学校に進学し、資格系に人気が集まる中、特に医療・看護系では苦戦しました。八割以上の生徒が推薦やAO入試を利用し、一般入試が少ないという傾向が続く今日、早期中退や離職を避けるためにも、第一志望の学校を最後まで目指す指導を続けたいと考えております。

そのため、昨年度新たに設けたセンター試験受験生向け特別補習や、指定校合格者向け特別補習等を継続して実施し、満足感の高い充実した指導をして参りたいと考えております。

## ◎進路指導の方針と重点

進路指導部は、「主体的に進路を選択できる能力や態度を育て、進路実現のための積極的取り組みを支援する。」を基本方針とし、以下の三点を重点としております。

- ①生徒の発達段階に応じたキャリア教育を推進し、高校卒業後も見通した、三年間の全体計画、年間指導計画を改善し、計画的、組織的な進路指導体制を確立する。
- ②一人一人が自己の能力・適性や多様な可能性を理解し、将来の夢や希望の実現に向けて主体的に進路選択ができるよう、情報提供や説明及びそれらに基づいた学習等のガイダンス機能を充実する。
- ③生徒が自ら希望する進路を実現できるよう、「生き抜く力」の礎となる確かな学力を身に付けるための指導を充実する。



朝補習

## ◎平成26年度卒業生 入試合格者

		普通科	理数科	英語科	合計
四 大	国公立	2	2	0	4
	私立	135	34	22	191
短 大	国公立	4	0	0	4
	私立	23	0	9	32
専門学校	看護	13	1	0	14
	その他	28	5	8	41
合 計		205	42	39	286

## ◎国公立大学の合格者数

- 岐阜大(1)
- 香川大(1)
- 北見工大(1)
- 都留文科大(1)

## ◎主な私立大学の合格者数

(過年度生を含む)

- 〈全国〉
- 明治大(3) 駒澤大(1) 成蹊大(1)
  - 専修大(1) 拓殖大(1) 中央大(1)
  - 帝京大(1) 東海大(6) 日大(1)
  - 法政大(1) 長浜バイオ大(1)
  - 金沢工大(3) 福井工大(2)
  - 京都外大(1) 関西大(1)
  - 奈良大(1) 阪南大(1) など

## 〈東海〉

- 朝日大(6) 岐阜医療科学大(8)
- 岐阜経済大(3) 岐阜女子大(5)
- 岐阜聖徳学園大(8) 中部学院大(8)
- 東海学院大(1) 愛知大(1)
- 愛知学院大(20) 愛知工業大(2)
- 愛知淑徳大(6) 金城学院大(4)
- 椋山女子学園大(3) 大同大(7)
- 中京大(13) 中部大(17)
- 東海学園大(2) 名古屋外大(7)
- 名古屋学院大(7) 名古屋学芸大(2)
- 南山大(4) 日本福祉大(6)
- 名城大(16) 鈴鹿医療科学大(1) など

## ◎主な短大・専門学校の合格者数

- 岐阜市立女子短(4) 大垣女子短(4)
- 岐阜保健短(2)
- 岐阜聖徳学園大短(6)
- 中部学院大短(1) 東海学院短(2)
- 平成医療短(4)
- 愛知きわみ看護短(1)
- 至学館大短(1) 修文大短(3)
- 名古屋短(1) 名古屋文理大短(2)
- 南山大短(1)
- 国際たくみアカデミー(2)
- 東海職能大(1)
- 岐阜県立衛生専(4)
- 岐阜市立看護専(1)
- 下呂看護専(1)
- 朝日大学歯科衛生専(5)
- あじさい看護専(2)
- 愛北看護専(1)
- 中部美容専(4)
- トヨタ自動車大(3) など



平成27年度

# 各務原高等学校部活動の成績

(平成27年4月～5月 県大会ベスト8以上)

## 体育系

部 名	成 績 内 容 等
サッカー部	全国・東海高校総体岐阜県予選 3位
ラグビーフットボール部	全国・東海高校総体岐阜県予選 3位
剣道部	全国・東海高校総体岐阜県予選 女子個人 5位 岩田 結以 (東海大会出場)

平成27年度

# 人 事 異 動



離任式

## ▼退職者・転出者

※○は、本校在職年数(転出先等)

### 教 諭 出

- 地歴公民 近藤 健二 ② 【大垣北高校】
- 数 学 岩井 浩光 ⑬ 【山県高校】
- 数 学 藤澤 博子 ⑨ 【羽島北高校】
- 数 学 尾下 翔太 ③ 【関商工高校(全)】
- 理 科 河田 勝美 ⑧ 【華陽F高校(通)】
- 英 語 辻 浩美 ⑤ 【羽島北高校】
- 実習助手 山口 有紀 ③ 【市岐阜商高校】
- 事務長補佐 渡辺 敏昭 ② 【飛騨高山高校】

### 教 諭 退 職

- 理 科 山川 隆 ④ 【各務原高校再任用】
- 保 体 山田 英実 ⑤ 【各務原高校非常勤講師】
- 常勤講師 養護学 竹内 均 ⑦ 【新規採用(海津明誠高校)】
- 養護学 原 佳奈子 ① 【大垣桜高校】

## ▼転入者 (※前任校等)

### 教 諭

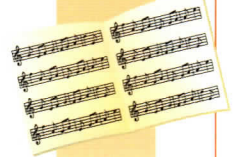
- 地歴公民 宮崎圭太郎 【大垣養老高校】
- 数 学 道澤 宏一 【岐阜各務野高校】
- 数 学 立川 智昭 【坂下高校】
- 数 学 今井 雅也 【初任】
- 理 科 長谷川有里 【武義高校】
- 理 科 牧田 篤弥 【初任】
- 理 科 平澤 直弥 【初任】
- 保 体 原 裕子 【市岐阜商高校】
- 英 語 吉長 大介 【初任(藍川中教諭)】
- 英 語 吉長 大介 【初任(藍川中教諭)】
- 養護教諭 養護教諭 吉長 大介 【初任(藍川中教諭)】
- 実習教諭 実習教諭 吉長 大介 【初任(藍川中教諭)】
- 常勤講師 常勤講師 鈴木 真理 【岐阜北高校】
- 非常勤講師 非常勤講師 速水 法子 【大垣工業高校】
- 事務長補佐 事務長補佐 野村 悠 【初任】
- 事務長補佐 事務長補佐 溝口 賢一 【岐阜城北高校】



着任式

◆部活動報告

吹奏楽部



顧問  
片桐 豊

六月十三日は、各務原高校吹奏楽部にとつて、忘れることのできない日になりました。

今年で二十五回目を迎えた定期演奏会を、初めて、各務原市民会館大ホールという素晴らしい会場で開催することとなりました。さらに、吹奏楽を志すものなら知らない者のいない著名な作曲家・指揮者である、ヤン・ヴァンデルロースト氏に客演指揮をしていただくことにもなりました。

昨年の夏、現三年生の部員たちが、校長室でヤン・ヴァンデルロースト氏のサイン入りCDを見かけ、校長先生とヤン先生の話で盛り上がりました。

「ヤン先生の曲は大好きです。もしヤン先生の指揮で演奏できたら・・・」そんな夢が、思いが、ヤン先生に届きました。

「ヤン先生の指揮で演奏できる。それなら、ヤン先生の指揮に恥じない演奏ができるバンドになる。」

かなった思いは、部員たちの取り組みを変えました。練習時間は大幅に増え、基礎練習をさらに重視するようになりまし。前年まで参加しなかつた

十二月のアンサンブルコンテストにも参加し、地区大会では、金管八重奏が金賞を受賞しました。二月に行われた中部日本個人コンテスト県大会では、三年生の岩田基睦君が金賞を受賞して県の代表となり、三月に長野県松本市で開催された本大会でも七名の岐阜県代表の中でただ一人の金賞を受賞しました。また、四月には、管楽器ソロコンテスト・イン東海に三名の三年生が出場するなど、結果にもつながるようになりまし。

四月になり、十一名の新入部員を迎え、三十二名となった部員たちは、近づいてくる演奏会に向けて、懸命に練習し、準備しました。練習すればするほど、新たな課題が生まれ、また練習する、そんな繰り返しは、今から思えば、「本物の」時間だったと感。本物の時間を共に過ごし、毎日成長する生徒たちを見ることができたのは、指揮者としても顧問としても幸せでした。

当日、午前十時半から約一時間半、ヤン先生の合奏指導を受けました。全英語での指導でしたが、「音楽」があるから、英語だけの指導も理解できたのかもしれない。ヤン先生の指揮にもただただひきこまれました。この直前の一時間半で、また、生徒たちの音が変わりました。

午後一時に第一部が開演しました。一曲目「イグニスの宴」は、私が正式に指導を始めた昨年の秋、最初に部員たちに渡した難曲でした。模範演奏を

聴きながら楽譜すら追えない変拍子の連続に、「できるわけない」という声が上がったことを覚えています。二曲目「調和級数」は、この夏のコンクール自由曲として練習しています。ヤン先生からも、「トリッキーな曲だね。コンクール用だね。」と興味を持っていただきました。そして三曲目でヤン先生登場。それまでも高かった生徒たちの集中力が、一層高まったのを感じました。「プスタ」の悲壮感と淡い夢の間隔、そして最後の疾走感をしっかりと表現できたと思います。アンコールをいただき、四曲目に、生徒たちの大好きなヤン先生のマーチ「アルセナール」を演奏しました。

第二部のポップスステージは、客席でヤン先生に観ていただきました。夢のような時間でした。

今回の定期演奏会は、本当に多くの方々に支えていただきました。特に、名古屋芸術大学様には、客員教授であるヤン先生の出演を快くお世話いただいたばかりでなく、竹内雅一教授に何度も本校に来ていただき、素晴らしいご指導をしていただきました。当日は三名の大学生の方々に、賛助出演もいただきました。また、保護者の方々、多くの先生方、友人の舞台を見に来てくれた生徒のみんな、スタッフをしてくれたOGの皆さん、足を運んでくださったお客様、演出をいかしてくださった舞台スタッフの方々、皆様の支援に、部員一同心から感謝しています。本当にありがとうございました。



第2部 ポップスステージ



ヤン・ヴァンデルロースト氏と